

早期景気観測調査

【6-7月期 調査結果概要報告書】

平成25年8月



甲府商工会議所

◆調査要領

1. 調査の目的： 山梨県内で最も速報性の高い『街角の景況感』を把握する調査として中小企業の明日の経営活動に資する。
2. 調査実施機関： 甲府商工会議所
3. 調査実施時期： 平成25年7月16日(火)～31日(水)
4. 調査対象： 当所会員 159事業所
5. 調査方法： ファクシミリによるアンケート方式
6. 有効回答数： 115（付帯調査回答数：102）
7. 有効回答率： 72.3%
8. 特記事項： 原則、小数点以下第二位で四捨五入

◆結果概要

【6－7月期の動き】

業況DIは、4期ぶりに悪化。 仕入価格の上昇止まらず、採算を圧迫

6－7月期の全業種総合の業況DIは▲30.4と、前期から5.0ポイント悪化し、4期ぶりの業況悪化となった。依然として続く原材料や燃料価格・電力料金等の上昇・高止まりに加えて売上も減少しており、採算が悪化している事業所が広範に及んでいる。一方、従業員には不足感が出てきており、金融機関の貸出し姿勢は改善傾向にある。

業種別では、製造業・建設業で業況が改善し、卸売業・小売業・サービス業では悪化した。製造業は、4期連続の業況改善となったが、円安等の影響で仕入価格が上昇しており、先行きを楽観視する声は少ない。建設業では、2期連続の業況改善となり、常態化していた業況悪化から脱した模様だが、公共工事の減少や低価格競争等により収益性の低下を懸念する声も聞かれる。一方、卸売業・小売業については、2期連続の業況悪化となり、仕入単価の上昇が続いている。また、サービス業では、3期ぶりの業況悪化となり、富士山の世界遺産登録に伴う効果の発現が期待される。

先行きに関しては、先行き業況DIが▲15.7（今期比+14.7ポイント）となっており、大幅に改善する見通しである。

足元で一服感が見られた業況も、景気回復への強い期待感を背景に今後も回復基調を辿るものと思われる。しかしながら、中小企業からは「景気回復の実感がない」との声もあり、依然として期待先行感は否めない。したがって、円滑な価格転嫁が進まない場合、仕入価格上昇が更なる採算の悪化を招き、業況が下振れする可能性がある。

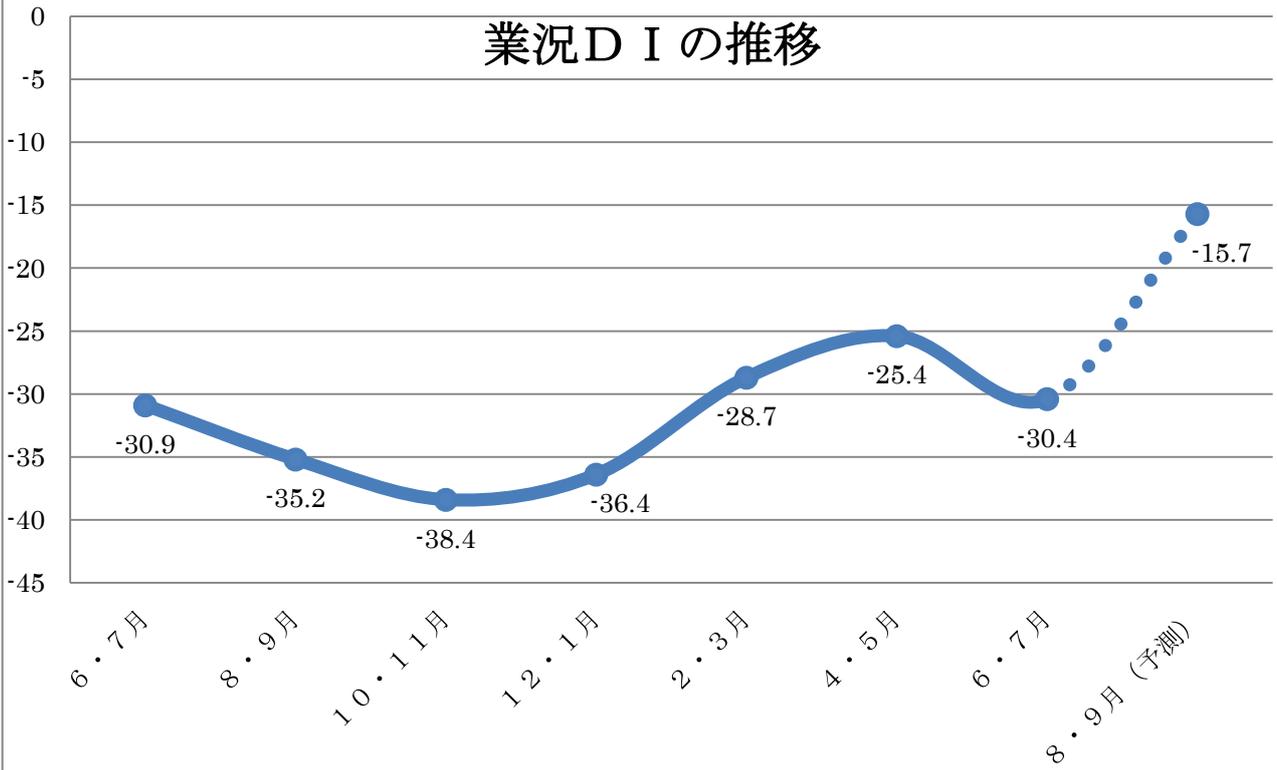
【付帯調査(景気回復の実感について)】

「実感していない」9割超

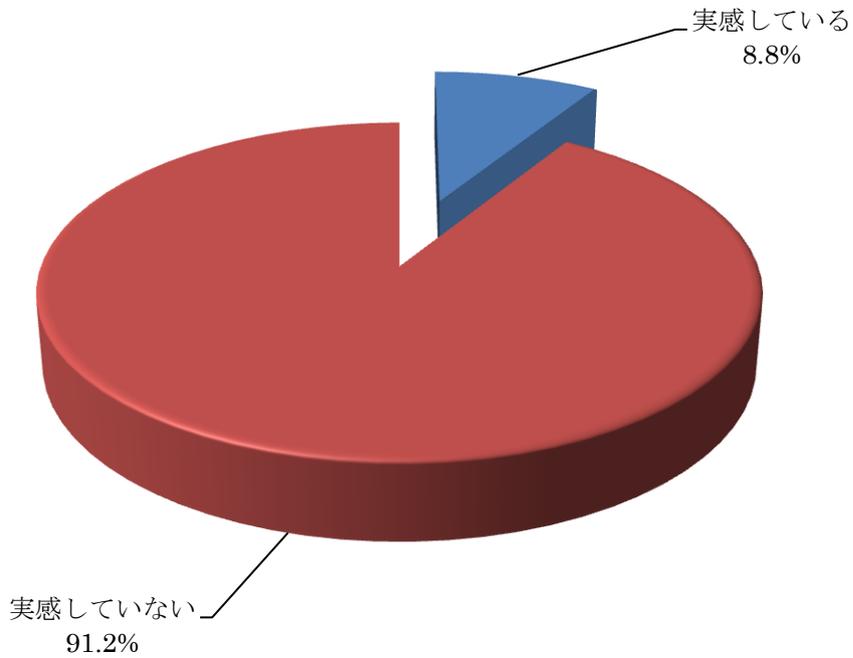
付帯調査として、「景気回復の実感について」択一回答で尋ねたところ、「実感していない」と回答した事業所が91.2%（93事業所）に上った。

一方で、「実感している」と回答した事業所は8.8%（9事業所）に止まったことから、地方における中小企業の景気回復が遅れていることが窺える。

業況D I の推移



景気回復の実感について

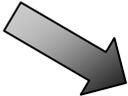


◆全業種・業種別詳細

※ D I 値 (景況判断指数) について

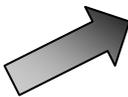
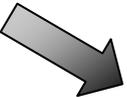
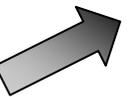
D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

◆指標の見方

| 前回D I に比べて (先行は今回実績値に比べて) | | |
|--|--|--|
| 改善 | 不変 | 悪化 |
|  |  |  |
| D I 値 | D I 値 | D I 値 |

※仕入単価D I は、仕入単価が下落した場合、「↗」 (改善) と表示しております。
 従業員D I は、従業員が不足している場合、「↗」 (改善) と表示しております。

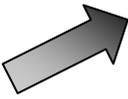
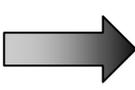
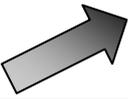
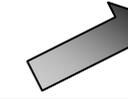
◆全業種総合

| 業況 | 業況 (先行) | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |
| ▲ 30. 4 | ▲ 15. 7 | ▲ 22. 6 | ▲ 33. 0 | ▲ 57. 4 | 2. 6 | ▲ 1. 7 |

6－7月期の全業種総合の業況D I は、**▲30. 4** (前期比－5. 0ポイント) となり、4期ぶりの悪化となった。改善していた売上D I ・採算D I が悪化に転じ、仕入単価D I は6期連続で悪化している。一方、従業員D I は改善してプラス (不足) に転じ、金融貸出しD I は2期連続の改善となった。先行きに関しては、改善を予測している。

◆ 業種別

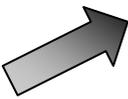
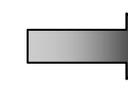
製造業

| 業況 | 業況 (先行) | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |
| 0. 0 | 0. 0 | ▲ 3. 2 | ▲ 9. 7 | ▲ 5 8. 1 | ▲ 1 2. 9 | ▲ 9. 7 |

業況D Iは、4期連続の改善となった。売上D Iは小幅ながら3期連続で改善しており、採算D Iも2期連続で改善している。しかしながら、仕入単価D Iは悪化に転じており、従業員D Iも3期連続の悪化となった。一方、金融貸出しD Iは改善に転じている。

先行きに関しては、不変を予測している。

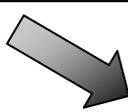
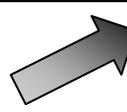
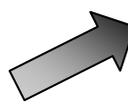
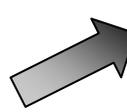
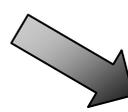
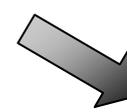
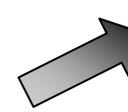
建設業

| 業況 | 業況 (先行) | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |
| ▲ 2 2. 2 | ▲ 5. 6 | ▲ 2 2. 2 | ▲ 3 8. 9 | ▲ 6 1. 1 | 1 6. 7 | 0. 0 |

業況D Iは、2期連続の改善となった。売上D Iは4期連続の改善となり、採算D Iも2期連続で改善している。また、仕入単価D Iは7期ぶりの改善となり、従業員D Iはプラス（不足）に転じている。一方、金融貸出しD Iは不変であった。

先行きに関しては、改善を予測している。

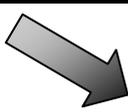
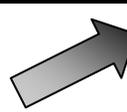
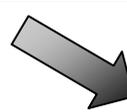
卸売業

| 業況 | 業況 (先行) | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |
| ▲ 55. 6 | ▲ 38. 9 | ▲ 16. 7 | ▲ 44. 4 | ▲ 72. 2 | ▲ 5. 6 | 11. 1 |

業況D Iは、2期連続の悪化となった。売上D Iは2期連続で改善しており、採算D Iも4期ぶりに改善している。しかしながら、仕入単価D Iが2期連続で悪化しており、従業員D Iもマイナス（過剰）に転じた。とりわけ、仕入単価D Iの悪化が著しい。一方、金融貸出しD Iは改善に転じている。

先行きに関しては、改善を予測している。

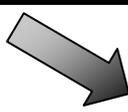
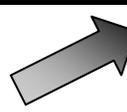
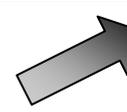
小売業

| 業況 | 業況 (先行) | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|--|--|--|--|---|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |
| ▲ 41. 9 | ▲ 29. 0 | ▲ 41. 9 | ▲ 41. 9 | ▲ 38. 7 | 6. 5 | 0. 0 |

業況D Iは、2期連続の悪化となった。売上D Iは3期ぶりの悪化となり、採算D I・仕入単価D Iについては共に2期連続で悪化している。とりわけ、売上D Iの悪化が著しい。加えて、従業員D Iも悪化に転じている。一方、金融貸出しD Iは不変であった。

先行きに関しては、改善を予測している。

サービス業

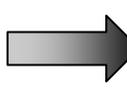
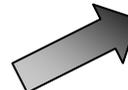
| 業況 | 業況 (先行) | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |
| ▲ 47. 1 | ▲ 5. 9 | ▲ 29. 4 | ▲ 41. 2 | ▲ 70. 6 | 17. 6 | ▲ 5. 9 |

業況D Iは、3期ぶりの悪化となった。売上D I・採算D I共に3期ぶりの悪化となり、仕入単価D Iも悪化に転じている。とりわけ、仕入単価D Iの悪化が著しい。一方、従業員D Iは2期連続での改善となった。また、金融貸出しD Iは悪化に転じている。

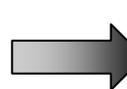
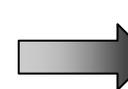
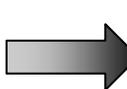
先行きに関しては、大幅な改善を予測している。

◆ 業種別詳細

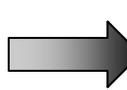
製造業（食品）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |

製造業（家具）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |

製造業（工業製品）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |

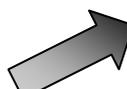
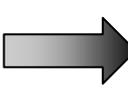
製造業（宝飾）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |

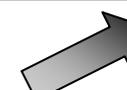
製造業（繊維）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |

建設業（建築）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |

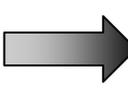
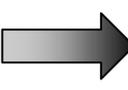
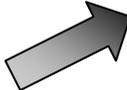
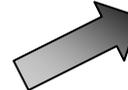
建設業（土木）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |

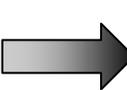
建設業（鉄鋼）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|--|--|--|--|---|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |

卸売業（食品）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |

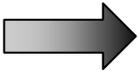
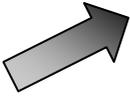
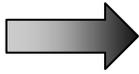
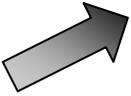
卸売業（繊維）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |

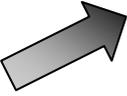
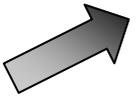
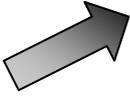
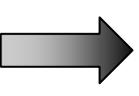
卸売業（その他）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |

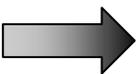
小売業（大型店）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |

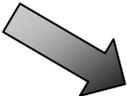
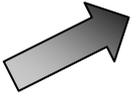
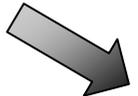
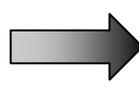
小売業（食料品）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |

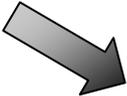
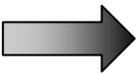
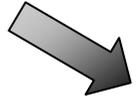
小売業（事務用品）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|--|--|--|--|---|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |

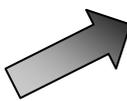
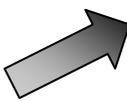
小売業（趣味・日用品）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |

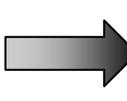
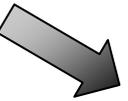
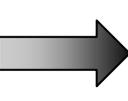
小売業（家電）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |

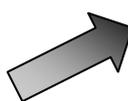
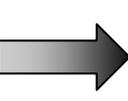
サービス（ホテル・旅館）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |

サービス業（観光）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |

サービス業（飲食その他）

| 業況 | 業況（先行） | 売上 | 採算 | 仕入単価 | 従業員 | 金融貸出し |
|--|--|--|--|---|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |

➤ 中小企業の声（現状や直面してる課題）

【製造業】

製造業（食品）

- ・円安による原料価格高騰分を、販路拡大と製品開発によりカバーしている。
- ・甲州ワインの消費が伸びている。
- ・円安による原料の仕入価格上昇
- ・中小零細企業は淘汰される。

製造業（家具）

- ・現実に業況は伸びているが、これがアベノミクス効果とは思われず、理由は分からない。消費増税後や TPP 参加後は（景気は）下降するであろうし、一過性のものと思っている。油断は禁物である。

製造業（工業製品）

- ・水晶振動子は、スマホ・携帯が最大の用途先であるが、世界の 2 大スマホメーカーに市場を席卷されて価格主導権を握られており、厳しい値下げ圧力により利益確保は容易ではない。
- ・不変
- ・日銀の伝えているような景気動向ではなく、まるで景気回復の実感がない。製造業は、まだまだ立ち上がりが先の感じ。お客様の忙しさが伝わってこない。
- ・大手企業は毎年前半で生産アップ、後半が生産調整で変化なし。
- ・鋳物業界は全体的には悪い。売上は減少（建機・半導体装置・工作機械等が好転していない）し、円安の影響で原材料・副資材がコスト UP、加えて電気代 UP で採算が悪化している。

製造業（宝飾）

- ・輸入品の価格上昇により、採算悪化を招いている。ユーザー展では、高いものは売れるが、中・低価格品の売上は伸びていない。

製造業（ニット、アパレル）

- ・業界が好転することを願っている。

【卸 売 業】

卸売業（食品）

- ・天候不順による価格の高騰のみで、景気回復感を感じられない。
- ・水産関係は、4・5・6月と悪化している。まだ富士山効果は表れていない。スーパー関係も、セブン・ローソン等にやられている。

卸売業（その他）

- ・円安によって仕入価格が20%上昇し、粗利が悪化している。

【小 売 業】

小売業（食料品）

- ・洋菓子業界は、皆さん大苦戦中。

小売業（趣味・日用品）

- ・売上だけを見れば下げ止まった感はあるが、景況好転とは程遠い。生き残りだけが目下の目標。
- ・一気に暑くなり、季節品が好調。
- ・よそのお店（の商品）が安くなりすぎている。
- ・業界紙等では、「高額品・高級品の動きが良い」との情報があるが、地方では全く実感がない。
- ・7月の売上はどこも減少している模様。

小売業（家電）

- ・（景気）回復は実感できないが、（景気が）悪いとは感じない。

【サ ー ビ ス 業】

サービス業（ホテル、旅館）

- ・富士山世界遺産登録に伴う観光客の増加に期待。現時点における売上高・採算の好転はリニューアル工事の効果。
- ・宿泊客は前年と比較して減少している。富士山世界遺産登録効果に関しても、今のところ何も関係はない。北岳・甲斐駒など南アルプスへの登山客が夏～秋のシーズンに多く、早朝3：30発のバスを利用するお客様に来て頂けるよう頑張る。

サービス業（観光）

- ・まだ世界遺産効果が出ていない。
- ・数年実施していない社員旅行等が復活している。

サービス業（飲食その他）

- ・とにかく、主力メニューの「うなぎ」の高値で大変。
- ・ウナギばかりでなくサカナもこのまま獲られ続ければ危機的状況と言われている。人間の知恵と遺伝子解析の力でウナギが増えてほしいと願う。
- ・従業員の不足

【建設業】

建設業（建築）

- ・経済対策及び25年度当初予算に計上された公共事業の発注増の実感も実績も感じられない。今後の動向も、国発注工事においては大型工事が大部分を占める気配で、地方の中小（企業）に発注が少ない感じがする。
- ・資材高、外注費（人工代）の上昇に加え、更なる価格の引き下げ要請により、収益性の低下が甚だしい。

建設業（土木）

- ・売上高 UP は短期のものだけであり、景気回復の影響とは言い難い。公共工事も、発注が未だされていないので、本格的には来年度あたりになるのではないか。
- ・アベノミクス（三本の矢）では建設業界は良くならない。公共工事は少なく、民間工事は全然駄目。不動産の宅地造成が動いている。

建設業（鉄鋼）

- ・円安による輸入原材料の値上げに伴い、製品単価（鋼材）の値上げが5～10%ある。

